

# 新しいアプローチで がんのリスクをチェック!

## アミノインデックス。 がんリスクスクリーニング(AICS)

がんによる死亡者数は年々増加しています!

●日本における死因別死亡率の推移



平成22年人口動態統計月報年計(概数)(厚生労働省)より

●部位別のがん罹患率順位(2007年推計値)

	男性	女性
①	胃	乳房
②	大腸(結腸・直腸)	大腸(結腸・直腸)
③	肺	胃
④	前立腺	子宮
⑤	肝・胆管	肺
⑥	食道	肝・胆管
⑦	脾臓	甲状腺
⑧	膀胱	卵巣
⑨	腎・尿路	膵臓

日本における、がんによる死亡者数は年々増加傾向にあり、1981年以降死因の第1位となりました。

また、2010年には、全死亡者数119万7千人中、がんによる死亡者数は35万3千人となり、死亡者の約1/3ががんにより死亡しています。

近年、がんの診断技術や治療法は急速に進歩しています。早期にがんをみつけ、早期に適切な治療を行うことにより、がんによる死亡のリスクを減らすことができることから、定期的ながん検診による早期発見が重要です。

### Q. AICS(エーアイシーエス)ってなんですか?

A. アミノ酸を測定して、がんのリスク(可能性)を予測する検査です。

健康な人の血液中のアミノ酸濃度は、それぞれ、一定に保たれるようにコントロールされていますが、がんの人では、一定に保たれている血液中のアミノ酸濃度のバランスが変化することが分かっています。

AICSは血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析することで、がんであるリスク(可能性)を予測する検査です。



### Q. どのようながんのリスクが分かるの?

A. 現在は、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん(男性のみ)、乳がん(女性のみ)、子宮がん・卵巣がん\*(女性のみ)を対象としたリスクについて予測することができます。

検査項目	対象がん
男性AICS[4種]	胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん
女性AICS[5種]	胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮・卵巣がん*
女性AICS[2種]	乳がん、子宮がん・卵巣がん*

\*子宮がん・卵巣がんは、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんを対象としています。いずれかのがんであるリスクについて予測することができますが、それぞれのがんのリスクについて区別することはできません。

### Q. がんであるリスクとは、どのようなことですか?

A. 現在、がんである確率のことで、がんか否かをはっきりと判断するものではありません。

リスクとは、確率、可能性、危険性などと呼ばれるもので、がんであるか否かをはっきりと判断するものではありません。

AICSは、それぞれのがんについて、がんである確率を0.0~10.0の数値(AICS値)で報告いたします。リスクの傾向は数値が高いほど、がんである確率が高くなります。

また、このAICS値からリスクを判断する目安として、「ランクA」「ランクB」「ランクC」に分類され、がんであるリスクの傾向が3段階で示されます。

ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0

低い ← がんであるリスク → 高い

### Q. 検査はどのように行われるの?

A. 血液を少量採血するだけです。

特別な検査の必要はありません。少量の血液(5mL程度)で検査をすることができます。

1回の採血で、男性AICSは4種類、女性AICSは5種類または2種類のがんに対するリスクについて検査を行います。

人間ドックや健康診断など、採血を行う機会と同時に検査をすることができます。



### ●検査の対象者について

AICSは、下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外のAICS値は評価対象外となります。

対象がん	対象年齢
胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん	25歳~90歳
前立腺がん	40歳~90歳
子宮がん・卵巣がん	20歳~80歳

### ●AICS受診前の注意点

- 検査のための採血は、食事後8時間以上あけ、午前中に受診してください。
- アミノ酸のサプリメント、アミノ酸含有スポーツ飲料、アミノ酸製剤、牛乳・ジュースなども食事同様にお控えください。
- 妊娠されている場合、AICS値に影響がありますので検査は受けられません。